

## 提出書類，部数及び注意事項

1. 学位論文審査願 (別記様式第6号) 1通 (課程博士の場合)  
学位申請書 (別記様式第7号) 1通 (論文博士の場合)
  
2. 学位論文(主論文) 2通
  - ① 日本工業規格A4判とする。
  - ② 和文又は英文の横書とし，図入りの場合でも別冊としない。
  - ③ 申請時は，ファイル(ソフトカバー)に綴じて提出すること。  
表紙と背表紙に論文題名及び氏名を記載すること。  
この場合，申請年月日や学府名等は一切記載しないこと。
  - ④ 年号の記載，論文本体の大きさ(頁数，行数及び活字のポイント数等)は，自由とする。
  - ⑤ 職名，身分，発行所は記載しないこと。
  
3. 論文目録 (別記様式第8号) 1通  
注意事項及び様式をふまえて作成すること。
  
4. 論文要旨 (別記様式第9号) 1通  
A4判の用紙2枚以内に，2000字程度にまとめること。
  
5. 履歴書 (別記様式第10号) 1通  
注意事項をふまえて作成すること。
  
6. 参考論文 (ある場合) 1通  
注意事項及び様式をふまえて作成すること。
  
7. 博士論文のインターネット公表(九州工業大学機関リポジトリ掲載)確認書 (様式A) 1通  
別冊「学位論文の電子的公開について」を参照

-----原則として学位授与日まで-----

8. 学位論文(全文か要約)の電子ファイル

## 論文目録・履歴書作成上の注意事項

### I. 共通事項

#### (1) 様式及び用紙について

様式は、九州工業大学学位規則及び九州工業大学大学院情報工学府博士の学位審査に関する取扱内規に定めるところによる。

用紙は、上質の白紙で、日本工業規格A4判とする。

#### (2) 記載方法等について

- ① 黒又は青色のインク、ボールペン、ワープロ又はタイプ印刷等によるもので、永久保存に耐え得るものとする。
- ② 楷書で正確、明瞭に記載し、当て字や略字は使用しないこと。
- ③ 誤記・脱字等のある場合は、補正のうえ当該箇所に捺印すること。  
なお、補正が著しい場合は改めて作成すること。
- ④ 所定の様式により、左綴じとし、綴じ込み幅を約2cmとすること。

### II. 論文目録

#### A. 主論文

##### (1) 題名について

- ① 題名（副題を含む。）は、提出論文のとおり記載すること。
- ② 題名が外国語の場合は、題名の次にその和訳を（ ）を付して併記すること。
- ③ 題名を異にする数個の論文をまとめて1編の学位論文としたものについては、その総合の題名を記載し、個々の題名は記載しないこと。

##### (2) 印刷公表の方法及び時期について

- ① 公表は、単行の書籍または学術雑誌等の公刊物（以下「公表誌」という。）に登載して行うものであること。
- ② 公表誌は、学術資料として大学その他の学術機関において保存され、随時閲覧し得るものであること。
- ③ 未公表のものについては、その公表の方法、時期の予定及び原稿枚数を記載すること。申請時において予定が定まっていない場合は「未定」とし、公表後に学位論文公表報告をすること。

#### B. 参考論文

- ① 主論文に準じ、その題名、公表の方法及び時期（予定を含む。）並びに冊数を記載する。
- ② 製本はソフトカバーとし、審査終了後は返却する。
- ③ 共著のものについては、共著者名を付記すること。共著者多数の場合は、「○○○ほか○名共著」のように記載すること。
- ④ 参考論文が2種以上ある場合は、列記すること。その記載順序は任意とする。

### III. 履歴書

(1) 氏名について

- ① 戸籍又はパスポート等のおおりに記載し、通称等は一切用いないこと。
- ② 氏名には、必ずふりがなを付すこと。

(2) 本籍地について

戸籍のおおりに都道府県名のみを記載すること。

(3) 現住所について

- ① 住民票に記載されている住所（公称地名・地番）を記載すること。
- ② 外国出張等で長期にわたり海外に在住する予定である場合は、その居住地を記載すること。  
国内連絡先がある場合は、その旨を申請時に申し出ておくこと。

(4) 学歴について

- ① 新制大学卒業程度以後の学歴について、年次を追って記載すること。
- ② 入学，進学，休学，復学，退学，編入学，卒業及び修了等，在学中における身分上の異動について漏れなく記載すること。

(5) 職歴について

- ① 常勤の職について、その勤務先及び職名等を年次を追って記載すること。  
ただし、非常勤の職であっても、特に教育・研究に関するものについては記載することが望ましい。
- ② 現職については、当該職について記載した箇所に「現在に至る」と明示すること。

(6) 研究歴について

- ① 学位申請上，特記すべきものと思われるものについて、年次を追って事項別に記載すること。
- ② 学術に関する研究歴として記載する事項は、おおよそ次のようなものであること。
  - a. 研究課題（共同研究を含む。）に関するもの
  - b. 研修に関するもの
  - c. 学術調査に関するもの
  - d. 研究発表（著書・論文等）に関するもの
  - e. 学術奨励金に関するもの
  - f. 学会に関するもの
  - g. その他，学位審査の参考となるもの

以上